

特集1

地域をつなぐ消防団

災害が発生したとき、
すぐに現場へ駆け付ける
地元の人たちがいます。

それは消防団。

彼らは消防隊員と共に、
消火活動や救助活動をし
ます。また、地域を守る
存在として、自主防災訓
練での指導や祭礼の警備
などもしています。

時には命の危険と隣り
合わせになりながらも、
地域のために活動する。
そんな消防団について
紹介します。



自主防災会防災訓練での参加家族と消防団員との一コマ(横山町)



桜井北部分団のみなさん

(敬称略)
 後列左から中ノ瀬智史、太田雅道、加藤崇徳、平岩竜也、平岩悟
 前列左から杉浦隆明、渡邊崇寛、米原雄太、喜納賢仁、高村淳

消防団の活動を紹介します

地元で火災が発生した場合に出動し、消防署の活動補助や消火活動を行います。また、大規模災害時には、救助活動や避難誘導もします。
 ほかに、操法大会や消防出初式などにも参加します。年間主なスケジュールは、下表のとおりです。

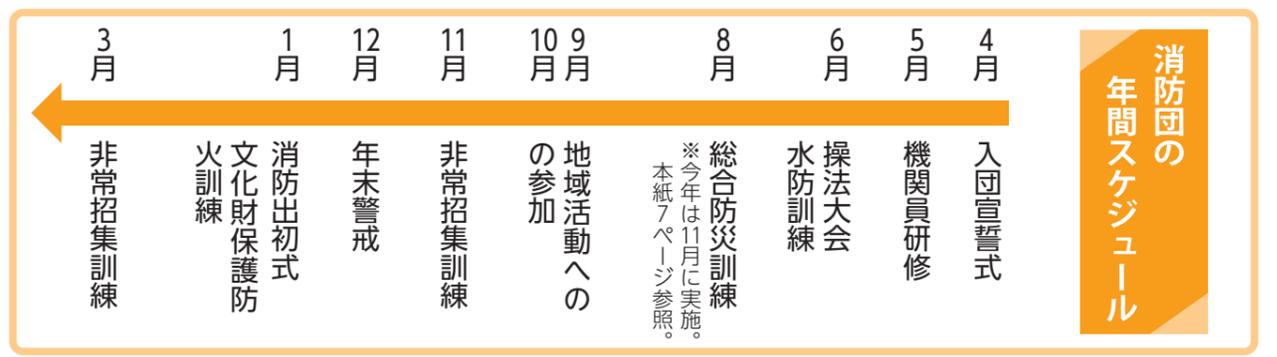
- 入団宣誓式
新入団員が宣誓をすることも、敬礼や行進などの基本的な訓練をします。
- 操法大会
ポンプやホースの扱いなど、消火活動の基本となる技術を競います。
- 消防出初式
年の初めに開催する、消防団体の士気を高める式典です。団員や各分団の消防車が行進します。
- 町内行事への参加
まちの安心・安全を守るためには、地域のひととの連携は欠かせません。自主防災訓練や祭礼などに参加します。

消防団員の声

市内には30の分団があり、40人の団員が活動しています。中でも、桜井北部分団は、今年の県操法大会で、見事5位に入賞しました。そこで、団員のみなさんに、やりがいや活動の様子などを聞きました。

◆気付いたら楽しんでいた
 杉浦・入団後、すぐに操法大会に向けて訓練が始まります。操法では、みんなの動きをあ

◆大切な仲間ができた
 喜納・火災現場は命がけ。中途半端な気持ちではできません。サイレンを鳴らして消防車で駆け付けて消火活動をする。普通に仕事をしていたら体験できない、貴重な経験をしていると思います。
 太田・父も消防団に入っていました。当時の団員同士は今でも



◆このまちを守る
 中ノ瀬・火災現場では、団員も興奮状態になりがちです。冷静に消火活動ができるように、

◆団員を募集しています
 消防団では、新しい仲間を募集しています。女性や学生も大歓迎です。
 ●入団資格 20歳以上で市内在住・在勤の人
 ●補償など 活動中の負傷については、公務災害として補償されます。病気で入院などには、見舞金が給付されます
 ●退職報償金 3年以上勤務して退職した人に支給されます
 ●表彰 勤続年数に応じて国・県・市から表彰があります

◆まちとのつながり
 平岩竜也・市外から引越してきましたが、消防団をとおして、地域とのコミュニケーションができました。
 高村・20・30代は地域との関わりは少ないですよ。地域の行事にも参加するので、違う世代の人とも知り合うことができました。
 日頃から厳しい訓練をしています。太田・市内で不審火が相次いだとき、見回りなど警戒活動をしました。地域の人たちの不安そうな顔を見て、まちを守りたいという思いが強くなりました。



1 4 操法大会
 2 水防訓練
 3 総合防災訓練
 5 入団宣誓式
 6 7 消防出初式